



群馬 直美さん (14期生)
東京造形大学絵画科卒業。葉画家
著書「木の葉と木の実の美術館」
『街路樹 葉っぱの詩』(世界文化社)
『言の葉 葉っぱの唇』(けやき出版) 他

葉っぱの絵に託して”命の輝き”を伝える

「この世の中のひとつひとつのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」。

葉っぱの精神と名付けたこの言葉は、木の葉一枚一枚が個性を持ち、四季折々姿を変えていく自然の姿に、人間が忘れていたものを見出した群馬さんの気持ちを表現した。34年に亘り木の葉や木の実など植物を原寸大で描いてきた群馬さんは、子供の頃から感情を別の物に託し表現した。「絵や朗読、ダンスも好きだった」。それは、現在の葉っぱの絵やエッセイを書く仕事に通じている。

大学在学中、絵画表現に悩んでいた時、たまたま見上げた街路樹の芽吹き的美しさに感銘を受けた。「これを表現したい。一生やっていこう」と決心。個展やイラストの仕事を手掛けながら模索し、テンペラ画に出会った。細密に描け、描いた時の輝きを失わないテンペラは、絵に永遠の命を吹き込めると感じた。

「作品を見ると元気になる」という鑑賞者の言葉に画家としての使命と喜びを感じる。「葉っぱの絵を通して元気を伝えたい」。群馬さんは命の輝きを伝える“葉画家”である。



樋口 桃子さん (48期生)
フランクフルト音楽・舞台芸術大学
舞踊部門在学中

本場で観客の心をつかむ舞踊家を目指す

高校卒業後、ルーマニアの歌劇場にバレリーナとして採用されたのを機に、欧州の地に渡った。現在は、より自由な表現を求め、ネオ・クラシック、コンテンポラリーといった現代舞踊への興味を膨らませ、ドイツの大学に通う。ジャズ、ヒップホップ、フラメンコなど多様なダンスレッスンと並行して、舞踊の歴史や作品の知識を広げる授業も受講。

「大学に拠点を置きながら、プロとして活躍できる場を求めてオーディションを積極的に受けていきます」と意気込みを話す。

桃子さんは、大学進学が決まるまでの2カ

月間、リュック一つで欧州の目ぼしいバレエ団等を巡り、自身を売り込んだという度胸の持ち主。3歳から通い始めたバレエスタジオがドイツ公演で成功を取めた時、桃子さんは中学3年生。異国での初舞台の経験は「自分には踊りしかない」という揺るぎない想いを育み、今も将来への夢を膨らませ続ける。

「テクニックより、作品への理解を深め、抽象的なイメージをどう具現化していくかを大切にしたい」。日本人ならではの繊細さを個性に、桃子さんは欧州の舞台に舞う。



清水 麻有さん (52期生)
農大二高3年生

サクラセブンズ最年少! タックル、チャンスメイクが強み

男子選手に交じりグラウンドを駆ける清水麻有さんは7人制女子ラグビー日本代表「サクラセブンズ」の選考枠21名の最年少、唯一の高校生だ。4月からは日本体育大学に進み、女子ラグビー部へ入部する。

麻有さんは小学3年生時、父に連れられクラブチームの見学に行き、ボールを持って走り抜けるラグビーの楽しさに夢中になった。中学2年で女子ユース20のバックスに。「相手のスペースに入りこんでボールをつなぐチャンスメイクが得意です」と笑顔で話す。柔道経

験は体幹の強さとなり、タックルも強みだ。U20アジアシリーズで2大会優勝、アジア・スリランカ大会の優勝も経験した。今後、リオ五輪出場選手12名に選ばれるには、3月に行われる日本代表の国際試合でどれだけ活躍できるかが鍵となる。「世界レベルの試合は初めてだが、気持ちで負けないようにしたい」。“タックルされてもすぐには倒れない麻有さんらしさ”をアピールできれば、リオオリンピック、そして次なる東京オリンピックも見えてくる。がんばれ、麻有さん!



舟田 真徳さん (20期生)
アメリカイリノイ州ローリングメドウ市
理美容室Uni-hair (ユニヘア)代表取締役

アメリカで夢実現。メジャーリーガーも訪れる人気理美容室経営

シカゴから車で30分程にあるローリングメドウ市で理美容室を営む舟田さん。在米26年。中学時代、洋楽を聴いて「カッコいい! 行ってみたい!」とアメリカに憧れ、高校で髪を伸ばし、美容師を目指した。専門学校卒業後、約5年間、高崎のヘアサロンに勤務し、24歳で渡米。アメリカで理美容室をオープン、夢を実現させた。店舗スタッフは全員日本人で、海外でも日本と同じサービスを提供し、在米日本人に愛されている。同じ髪質のアジア人にも好まれ、欧米人からは日本の丁寧なサービスと確かな技術が人気でリピーターも多い。

客の7割は日本人、2割は親日的なアジア人、1割が欧米人。今やシカゴ周辺のメジャーリーグで活躍する日本人選手もやってくる有名店となった。

農二時代のクラスメイトのうち舟田さんを含め、3人がアメリカで生活している。「在校生達には、日本だけでなく海外という選択肢がある事を覚えておいてほしい」と語る。昨年春、店舗を移転拡張した。将来は「アメリカでの経験を生かしたサロンを日本にも展開したい」—舟田さんは、次なる夢を描き新たな挑戦を始動している。



木暮 博さん (24期生)
トヨタ自動車(株)
田原工場工務部 総括室グループ長
陸上長距離部 事務局長
(写真一番右)

日本一の駅伝チームを影で支える

元日、群馬を舞台に熱いレースが繰り広げられる「ニューイヤー駅伝」で、去年と今年2年連続日本一に輝いたトヨタ自動車陸上長距離部。木暮さんは、駅伝チームの広報や地域貢献をサポートする事務局長として選手たちを支える。

農二時代はラグビー部で、花園で初めてベスト8に進出した世代。兄が果たせなかった熊谷工業打倒を胸にラグビーに打ち込んだ。はじめは勝つことだけが目標だったが、次第にラグビーの楽しさや仲間がいる大切さを感じ

るようになった。「ラグビーで学んだチームの大切さと自己犠牲の尊さ。それが今のベースになっている」と話す木暮さん。

名古屋大学からトヨタ自動車へ入社後は、官公庁向けの営業や工場で生産管理、原価管理を経験。部下ができると自らがラグビーで得たものを伝えてきた。そしてチームワークの大切さを学んだ後輩たちは、事務系のQC(クオリティコントロール)コンテストで2度の日本一に輝いた。



重田 雅俊さん (36期生)
LACCO TOWER Drums

メジャーファーストシングルは人気アニメのED曲に抜擢

野球に打ち込み、甲子園を目指した。高校3年の冬、野球での大学進学も考えたが、もう一つの選択肢だった音楽を選んだ。中学でバンドを組んだが、野球のためにやめていた。大学に進み、かつての仲間と再びバンド活動をスタートさせた。

日本語にこだわったバンド「LACCO TOWER」のドラムを担当する。メンバーと会社を立ち上げ、インディーズ業界で立ち位置を確立してきた。そんな中、今回コロナから誘われてメジャーデビューを果たすことに。ファーストシングルとなる『薄紅』

は、アニメ「ドラゴンボール超」のエンディング曲に抜擢された。

「メジャーデビューしてもバンドの本質はインディーズと変わらない」と重田さん。この先の目標は、「3年以内に武道館公演」と話す。地元群馬への愛着もある。自主企画の「I ROCKS」は、群馬の後輩バンドと音楽業界で先頭を走る仲間のバンドをつなぐイベントとして、今年も4月30日、5月1日に群馬音楽センターで開催する。
※FMぐんまで毎週金曜日19時15分から「RADIO TOWER」放送中

同窓生の お店・会社紹介

グリル竹



竹内 勉さん (4期生)
高崎市井野町965-4
TEL: 027-361-4262

28年前、「甲子園に応援に行くために」脱サラし、焼肉とラーメンの店として開業した野球部OBの竹内さん。和牛カルビ、塩タン、中華そば、カレー、キムチなど長年の人気メニューが並ぶ。ランチタイム後一息つくと、常連達がやってきて「一緒に飲もう」と居酒屋の体をなす。-25℃に冷やしたジョッキで飲む生ビールは「世界一おいしいですよ」と竹内さん。奥様は農二時代の同級生だ。「健康第一。ふたりで元気にやっていきたい」と笑顔があふれた。

パティスリー シャンティエ



本山 佳宏さん (12期生)
オーナーシェフ
[沼田本店]沼田市東原新町1542-4
[敷島店]前橋市岩神町4-12-10
[天川大島店]前橋市天川大島町2-26-10

沼田産のリンゴやブルーベリーを使った焼き菓子、沼田産枝豆のフロマージュが人気。地元産米粉の焼き菓子は小麦アレルギーの方に喜ばれ、乳製品アレルギーの方には豆乳使用のケーキを提供するなど、きめ細かく対応している。

シャンティエ沼田店は息子さんと娘さんが切り盛りする製菓業一家。本山さんは「日本の風土に合った地元食材を使った洋菓子作りに挑戦したい」と話す。今期、大河ドラマ『真田丸』にあやかっただ「忍者のお菓子」も一押し商品だ。

妙義ナバファーム



黛 紀昭さん (25期生)
安中市松井田町五料3907-26
TEL: 027-393-5630
URL: http://www.navafarm.com

妙義山麓の清らかな水と澄んだ空気で、椎茸や舞茸を栽培する妙義ナバファーム。黛さんは昨年3代目社長に就任した。温度や湿度を管理されたハウスの中で約90日かけて成長した椎茸は、肉厚で香りも良く、やわらかい。ウェブサイトでの購入も可能だ。

同社は、菌床椎茸栽培の先駆者として、良質な椎茸を安定的に栽培できる手法を確立してきた。東日本大震災の時には風評被害もあったが、近隣の同業者と力を合わせて「きのこ王国群馬」を盛り上げていく。

カジュアル酒場 NaSuBi



堀口 としみさん (32期生)
安中市磯部3丁目1268-1

昨年11月オープン。高崎の系列店3店舗からの自慢のメニュー(パスタ店、焼き肉店、地産地消の居酒屋)の他、新鮮な刺身や希少な日本酒などを提供する。ヒレ肉の丸太カツ、串焼きも一押しだ。早くもできた常連さん達が、同店ならではの味を求めてやってくる。堀口さんは「近くに独身寮があり地方出身の方も多く、お客さん同士が仲よくなる姿を見るのも楽しい」と笑顔でキュービット役を買ってでている。同店は磯部の新たな憩いの場所になりそうだ。